

農業をなぜ虐げるのか

平岡 均 議員



質問 農業をなぜ虐げるのか。三十七年間も減反・転作をやり当時生まれたことは四十歳近くなっている。FAOは二十五年後、地球規模で食糧危機がやって来ると報告している。

そういうことをふまえ、このまま、続ければ市の農政はどうなるのか。どうしていけないのか。市の農業の発展と共に培われた教育文化はどうなるのか。市独自の政策立案はどこに焦点を当てて作られるのか。

市長 教育も文化も農業を通して生まれてきたものが今に伝わってきたものと自身は考えている。国の政策は、農業を産業としてどうするか最近の流れで育成する線びきをどうするかが最近の農政である。

世界的にみれば、近い将来低開墾国の人口増加の為、これまでの海外依存から減反政

策が見直され、自給自足の道を歩まなければならない。

そうした意味で国内の食料生産の拠点都市としてこの仙北市の農業はあり続ける必要があると認識している。

質問 保育園の入園希望者が増えている。保育園に入れなかった子供たちをどうするか。

幼保一体化へ向けて規制緩和も矛盾をいろいろ含んでいるがそのことも含めて市長の考え方をお聞きしたい。

市長 幼保一体化の考え方や制度が変わってきている。

仙北市においても幼稚園と保育園が同じ近くで、同じ育て方をすることがますます必要となってきた。幼稚園保育園共用化の指針に基づき平成十七年度から今まで特区でしか認められなかった幼保一体の合同活動が出来るようになった。

国、県の動きを見据えながら幼保のあり方を検討していきたい。できるだけ、入れない子が生じないよう対策を考えていきたい。

質問 最近国家に提出された医療法改革は、高齢者を直撃する案である。七十歳以上の現役並の所得のある人は二割負担から三割負担になる。長期入院者は、食費と居住費を負担、介護保険と別に高額医療費の限度額を引き上げる。

介護型療養医療施設を半分以上に廃止する。是医者医療制度を創設する。七十五歳以上の被保険料を年金から天引きする。六十五歳以上の被保険者国民保険料を年金から引く。

これらの医療法改悪は国の改革だからといって済まされない問題がある。市長としてどう考えていくのか。

市長 高齢者医療費については、予防医学の重視、医療費の適正化の問題がある。超高齢化の問題に対する医療制度の改革、予防に勝る医療はない。何れ市長として無関心ではられない問題である。

子どもの安全対策は だいじょうぶか

藤原 万正 議員



質問 環境について伺いたい。環境ISOは、県内では二ツ井町や大館市等が取得している。

当市での環境ISOの取得に向けての取り組みについて伺いたい。

また短時間でしかも低価格で手軽にできるEMとぎ汁ばかりし液は、かび防止、ダニ対策、排水溝の浄化、消臭効果、水の浄化、雑菌対策、ペットの招集、植物や植木の育成等多岐にわたっている。

EM菌を活用した学校、プールの清掃も全国各地で実施されているが市長の考え方を聞きたい。

市長 環境問題ISO一四〇〇一については仙北市としても真剣に取り組んでいかなければならないと思ってい

る。

合併後の基本計画がまだ決まっていないので、取り組み方を検討していきたい。

EM菌については十文字町の視察研修をしている。

生保内小学校のプールでも調べたことがある。

環境にやさしいということもあり今後検討していきたい。

質問 仙北市も防災に対する意識の高揚を図ると共に、備蓄の状況と避難所とその周知徹底の方法について伺いたい。

市長 防災について意識の高揚を図り市民への啓蒙を強め、仙北市全体の高揚を図っていきたい。

また備蓄については、旧田沢湖町で三百人分、旧角館町で三百三十人分、旧西木村で百人分である。現在確保されている物は毛布、タオル等である。

この事については今後考えていかなければならない。避難場所については市政に

